

a 学校教育目標		「自ら伸びる」児童の育成 ～わくわく登校、満足下校～		b 経営理念 ミッション・ビジョン		【ミッション】(自校の使命) 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 夢や目標に向かって、自ら伸びようとする児童を育成する学校 【育成を目指す資質・能力】○知識及び技能 ○思考力・表現力 ○主体性																			
評価計画												自己評価						改善方策			学校関係者評価				
c 中期経営目標		d 短期経営目標		e 目標達成のための方策		f 評価項目・指標		g目標値		10月 h達成値		2月 i達成率		j評価		k結果と課題の分析			改善方策			評価 イロハ		コメント	
確かな学力の育成	主体的に 学びあう児童を育成 する。	○児童自らが目標や課題を設定して、その実現や解決に向け主体的に取り組む能力や意欲・態度を育成する。	○問いの設定に視点をあてた授業改善を行い、児童の思考力・表現力の育成を行う。	児童質問紙肯定的評価の割合 ①「友達と考えと同じところや違うところを比べながら自分の考えを発表した。」 ②「友達の意見を聞いて、自分の考えが深まったり確信がもてたりした。」 ③「めあてと関連させ、分かったことや次の学習に生かしたいこと、考えたことなどを具体的に振り返った。」		80%		①84.4% ②91.3% ③96.6%		113%		A		児童アンケートの肯定的評価では、全ての項目で目標を達成することができた。一人一研究授業を計画し、授業力向上につなげている。また、研究授業で得られた成果と課題を日々の授業で生かしていることが児童の習慣化につながったと考える。			学力向上を図るために、以下のことに取り組む。 ⑦1時間ごとの授業の充実と課題の分析や対策を丁寧に、行い、わかる、できるにつながる授業の工夫を一層図る。 ④管理職が計算カードや暗唱を聞くなど四則計算の徹底を図ったり、読み書き計算の基礎学力定着に向けたりして、学校組織の取り組みを継続する。			6		・一人一研究授業を計画実施し、課題を分析して日々の授業実践され学力向上につながっている。 ・個の躰きを丁寧に把握しての取組を継続してほしい。 ・指導案検討を指導主事の方とされたり、授業改善として付けるべき力を明確にして取り組もうとされる等、日々の授業に重点を置き研究されている事は素晴らしいと思う。また、朝学習の活用など、子供達に基礎学力を付けていこうとする取組がわかった。			
			○各種学力調査に向けた対策や、国語科の思考力・判断力・表現力のテストの分析を通して、学力の向上を図る。	①標準学力調査 学年平均値 全国平均値＋1P以上 ②単元末テスト 思考力・判断力・表現力等(読むこと) 学年平均通過率90%以上		①100% ②100%		①未実施 ②73.5%		82%		B		単元末テスト(思考力・判断力・表現力等)の学年平均通過率90%以上は達成できていない。しかし、単元ごとに分析してみると、全学年が期待平均点以上とれている。二極化が見られる学年があるため、C層児童の手立てが必要である。			児童の思考力・表現力をつけるために、以下のことに取り組む。 ⑦各学年の単元で付けるべき力を落とさないよう指導を確実に 行い、児童の学力アップにつなげていく。 ④NRT、標準学力調査、全国学力・学習状況調査に向けて、スケジュールを細かく立てて、既習内容の学習を復習できるアシストシートや学校独自で作成した類似問題を活用するなどして練習問題に取り組ませる。			6		・先生方の改善の熱意が素晴らしい。結果は必ず出ると思う。 ・児童の2極化解消にむけて、朝学習を実施していることは素晴らしいと思う。 ・社会見学会の振り返りの授業を観察しました。児童の元気ハツラツの姿を拝見し、大変良い取組だと思いました。 ・C層の子供達への手立ては、中学校でも重大な課題となっている。小中で協力して取り組みたいと思う。			
豊かな心・健やかな体の育成	○様々な人や事象との関わり合いを通して、豊かな人間性と健やかな体を培う。	○健康で活力ある生活を送るための基礎を培う。	○児童の基礎的生活習慣の確立を図り、自己肯定感を向上する。	○沼田西小学校『五つの宝』の取組や、自己有用感を育てる特別活動を充実させ、児童の自己肯定感、共感的な人間関係、規範意識を培う。		児童質問紙肯定的評価 (1)「自分のことが好き。」 (2)「自分には相談できる人や助けてくれる人がある。」		90%		(1) 79.8% (2)90.3% 平均85%		94%		B		(1)「自分のことが好き。」の肯定的回答は80%を下回っている。特に5年生では78.4%と低い。視野が広がったり価値観が変動したりする時期にあたることも要因の1つだと捉えている。 (2)「自分には相談できる人や助けてくれる人がある。」の肯定的回答は90%を超えた。昨年度から取り組んでいる授業内での学び合い活動や、体育委員会主催の縦割り班遊びの成果であると分析している。			昨年度は、学び合いや縦割り班遊び等を通して、人と関わることで自己肯定感を高めるようにしてきた。今年度は「学級づくり」に力を入れ、当たり前のことを当たり前にしていくのではなく、「自分から」を合言葉とした児童一人一人の主体性を育んでいける取組を、特別活動を中心に行っていく。			6		・下校途中低学年がしんどくて歩けなくなった時高学年の女の子が水をのませるなど、気遣っているのを見かけた。まさに沼田西小伝統の縦割り班活動の成果と感じうれしく思った。 ・今までにない大きな元気のよい挨拶を近所の子がしてくれた。あいさつ運動の効果が出ているように思い、心が温かくなった。 ・体育委員会が主催しての楽しい活動、ACPオンラインを通しての実施などいろいろな時間を有効活用されている。大変良いと思う。 ・給食時間の確実な確保がまずは必要であると思う。	
			○友達や故郷を愛する心情を育てる。	○地域と連携し、地域の宝を生かした取組を推進し、郷土を愛する心や、地域の役に立ちたいという児童を育成する。		児童質問紙肯定的評価 (1)「沼田西町のためになることをやってみたい。」		90%		93%		103%		A		昨年度、「どんなことをすることが、沼田西町のためになるのか」を考え、今年度実施している。自分から地域の方へ挨拶をすることや毎年取り組んでいる敬老会のお手紙を自分の言葉で書く活動、そして、地域の方の力をお借りして取り組む総合的な学習の時間を中心とした学習など、地域の方とどれだけ関われるか、関わられてこれているかが、肯定的回答につながったと考えられる。			「沼田西町のためになることとは、どのようなことか。」を考え、取り組んできた一方で、「どうして沼田西町のためになることをやってみたいのか。」という根源については、児童の言葉から聞くことはまだできていない。より効果的な学習展開につなげていけるよう、今後その理由に迫っていく。						
			○全校外遊びや授業でのACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)を励行するとともに、体育的な特別活動を工夫して行う。	①児童質問紙肯定的評価 (2)「体を動かすこと(運動)」が好きである。」 ②残食率1%未満		①90% ②100%		①89% ②0%		①98.8% ②0%		C		①の「体を動かすこと(運動)」が好きである。」の児童アンケート項目では、肯定的に評価した児童の割合は89%であり目標値である90%を下回った。毎月2回のロング昼休憩時に、体育委員会が主体となって全校遊びや縦割り班遊びに取り組んだり、学級で決めた遊びを行ったりしていることが要因だと考えられる。また、毎月ののびのび朝会の際に、全校でACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)に取り組んだことも要因だと考えられる。また、②について、給食の残食率は、4月1.75%、5月2.19%、6月1.77%、7月2.36%であり、達成値は0%であった。このような数値が出たのは、給食保健委員会の児童が数値を視覚化できるようにグラフを作成し、オンライン朝会で校内の残食を減らそうと呼びかけたり、児童の生活習慣を改善することを目的とした「キラキラカード」には、「給食を食べましたか。」という項目を新設したりして、児童が自分で振り返ることができるようにしたからだと考える。			児童へ運動に慣れたり楽しみながら体を動かすことができたり給食残食率1%未満にしたりするために、以下の点に取り組む。 ⑦のびのび朝会におけるACP(アクティブチャイルドプログラム)の実施 上半期に引き続き、オンラインを通じて、全校で「運動は楽しい」と思えるようなACP(アクティブチャイルドプログラム)を実施する。 ④ロング昼休憩における体を動かして遊ぶ活動の実施 体育委員会を主体として、全校や縦割り班で体を動かして遊ぶ楽しい活動を企画し、実施する。 ⑤家庭への啓発 学級懇談会や個人懇談会、または学級通信を通して、児童のよりよい生活習慣の推進に協力していただくよう啓発する。 ①給食指導の継続 給食時間を十分に確保することや、各担任からの声掛け、学級活動で食育実施等に取り組むことを継続する。			6		・今年度の体育参観日では、いろいろな種目に取り組まれ、1人1人が自信をもち自分が好きになる取組につなげられている。また、QUアンケートを活用され、学級作りにつなげようとしていたと思った。 ・日々の生活と、地域のつながりを考えられている。総合的な学習の時間では、4年生が笑顔みはら、大空、社協等と連携し、学習されたことも地域とのつながりを教えられている。また、6年生の防災新聞は充実していた。 ・夏季休暇時の過ごし方は難しい。子ども会でも毎朝ラジオ体操を行ってもらっているが、それ以外で体を動かす事がなかなかできない。何か良いことがあれば知りたい。 ・体力測定で達成度は低いが続けることが大事である。 ・「五つの宝」『食育』などの推進は、学校だけでは限りがあります。今日まで保護者への取組を継続しておられますが、さらなる連携をお願いします。			
				○体育科を中心に、準備体操やACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)に取り組む、走・投力・敏捷性の定期的測定を行う。	体力測定「50m走」「ソフトボール投げ」「反復横跳び」の種目で、4月測定時よりそれぞれ0.3秒、3m、5回上昇した児童の割合		80%		37%		46%		D		体力の向上に向けて、ACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)や朝の会、帰りの会で1分程度運動に取り組む(アクティブタイム)、週末に取り組む運動の宿題(週末プラス1)など、1学期間継続して取り組んできた。9月に体力測定を行い、4月の測定結果と比較した結果、指標を達成していた児童の割合は36.5%で、達成値は45.6%であった。今回の結果の要因には、熱中症指数による運動する機会の減少や、夏季休業中の家庭での食生活や運動習慣が大きく影響しているのではないかと考える。			体力向上(特に、50m走、反復横跳び、ソフトボール投げ)のために、引き続き以下の点に取り組む。 ⑦朝の会や帰りの会での「アクティブタイム」の導入 各学級で「アクティブタイム」に取り組む。 ④週末プラス1(運動の宿題)の継続 週末にも位置付けて取り組んできた運動の宿題に継続して取り組む。 ⑤ACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)や5分間走の導入のびのび朝会や授業の導入の際に取り組むことで、運動量の確保と体力の向上を図る。 ①陸上講師の招聘 陸上講師を招聘しよりよい走り方を学ぶことで、体力の向上を図る。			6		・人と関わりがもてず、学校生活が困難になってくる児童に対して「学級作り」に力を入れられることは、大変有益であると思う。 ・コロナ以下、体力の低下が中学校でも著しい。 ・運動が苦手な子供に遊びを通して体を動かす楽しさを実感させることはとてもいいと思う。		
信頼される学校	○保護者の願いに応え、信頼される学校づくりを推進する。	○不祥事防止の徹底 ○協働的な学校運営 ○教職員が健康でやりがいをもって勤務できる働き方	○意識向上を図り、自分事として考える研修を実施する。 ○不祥事防止に関わる情報を視覚化して提示する。	不祥事0(ゼロ)		100%		92%		92%		B		○B評価(92% 80%)であった。 ・不祥事が1件あった。(交通事故) ・自分事として考える研修の取組は定着しているが、防ぎきれないこともある。予防の視点と共に、起こった後の適切な対応がどの職員もとれるように研修の中で意識を高めていく必要がある。 ・各主任が自覚をもち協働的な学校運営に取り組めているものの、職員1人1人が意識を高め個人のスキルアップが必要である。 ・働き方に対する教職員の意識は高まっているものの、今年度のように教職員の異動が多い時には、1からのスタートであり、1人1人の傾向と対応策を組織的に考えていく必要がある。			⑦不祥事防止に関わって、研修の充実はもちろんのこと、校内で作成したチェックリストを使ったり、常に意識できるよう、防止のためのチラシなどを掲示したりしていく。 ④業務の効率化に関わって、情報の共有と見通しをもった取組は欠かせない。業務内容の優先順位、ICT等を使用した視覚化・効率化などの視点から働き方改革を進めていく。また、多様な業務を効率よく進めていくためには、職員のスキルアップが関わってくる。主任層が経験年数の浅い職員へお手本を示したり、研修への積極的な参加を促したりしていく。 ⑤日頃のストレスの有無、健康状態などお互いに声をかけあえる相談しやすい環境を整え、同僚性を育むことで、職員の心と体の健康管理に充分注意していく。			6		・職員のスキルアップには時間がかかる。主任、管理職のフォローがますます必要であるが、そのことが相談しやすい環境を整えることにつながっていると思う。 ・若い先生方のあいさつに心が明るくなる。 ・先生方の体調が心配である。 ・教職員全体で、意思統一しながら進めておられることがよく分かる。1人1人が健康管理に充分留意しながら、引き続きの取組をお願いします。			
			○学校自己評価表を指標として、主任の機能化と部会の活性化を図り、PDCAサイクルにより協働的な学校運営を行う。	教職員自己評価肯定的評価 (1)「二部会などで自分に任された公務に積極的に取り組んだ。」		100%		80%		80%		B													
			○組織的に業務改善を推進する。	時間外在校時間45時間以内の職員の割合		100%		96%		96%		B													

【j: 自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【I: 学校関係者評価 評価】
イ: 自己評価は適正である。
ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: 分からない。